

おたがいの立場のちがいの 自覚から連帯へ

夜間学校のめぐすもの

▼「夜間学校」が始まったのは
 八一年ですから、今年で四年目
 ということになりました。金曜日
 にくばっている「夜間学校ニユ
 ース」もすでに二〇〇号をこえ
 ています。

▼しかし、この三年の間に、夜
 間学校の運営メンバー（テーマ
 を何にするかを決めたり、ニユ
 ースの原稿を書いたり、印刷し
 たり、配ったりするメンバー）
 にもかなりの変動があり、そもそ
 も、夜間学校とは何であり、何
 をするところか、という点につ
 いて、アイマイだと二〇〇がでこ
 きています。

▼運営メンバーと一口でも、
 いろんな人がいます。まず、
 仕事からして、金で日雇いを
 している人もいれば、金の外
 で福祉施設の職員をしている
 人もいれば、学校の先生をし
 ている人、大学生もいます。
 ▼運営メンバーの考え、関心
 もさまざまです。ある人は、
 金の現状を変えたい、そのた
 めの話し合いの場として夜間
 学校を位置づけています。あ
 る人は、自分の職場と金との
 つながりを考えたいと思っ
 ています。また、ある人は、労
 働者の話を聞いて、金の現実

を知りたいと思っ
 ▼このように、ムとくちに、
 運営メンバーといつても、ど
 こで、どういう仕事をしてい
 るか、夜間学校をどう位置づ
 けているか、という点につ
 いては異なっています。
 ▼今まで、運営メンバー間の
 コミュニティをアイマイにし
 てきたと思えます。（今、こ
 の文章を書いている者につ
 いては、客観的には、金の
 労働者ではないにもかかわら
 ず、おたかも自分と金の労働
 者とが容易に一体視できるか
 のように思っています。こ
 ういう姿勢は今後はとらな
 いつもりです。）

▼では、「夜間学校」とい
 一つの集団としては、どうい
 う立場に立つのか。
 ▼今のところ、運営メンバー
 間にある考え、関心のちがいを
 前提にシフ、金の現状を変え
 るための方法、手段を考えてい
 く場をつくっていきたい、と思
 っています。運営メンバーを含
 めて、夜間学校の参加者それぞれ
 が自分の立場を明確にしつつ、
 金のーマイはこの国の現状
 を、自分にとって、また、自分
 たちにとつて、良いと思える方
 向に変えていく、そのための話
 し合いの場にしていきたいと思
 っています。
 ▼おたがいの立場のちがいをふ
 まえたうえで、どういう「連帯」
 どういう「仲間」ができくる
 のか、それを夜間学校は追求し
 ていきたいと思っ
 ▼一人でも多くの人の参加を待
 っています。